大学入学共通テストおよび国公立大二次・私大

大学入試

分析と対策

2024
令和６年度

英語

学 校 法 人　河合塾
英語科講師　江本 祐一

啓林館

この冊子の内容は次の URL からもアクセスできます
https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/kou/english2022/support/

1　大学入学共通テスト

（1）　概要

共通テスト４年目の2024年度の第１日程（以下すべて第１日程についての記述）は，基本的に2023年度同様に，リーディングは「さまざまなテクストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことを狙いとする」，リスニングは「生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について，概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問う」という出題方針に従った出題であった。リーディングでは大きな変更点はなく，2023年度に**第３問**Aで出題されたイラストを解答として選ぶ問題，**第５問**の物語文は2024年度も同様に出題された。リスニングでは**第４問**Aがグラフの完成問題ではなく，2022年度と同様のイラストの並べ替え問題が出題された点以外には大きな変更点はなく，**第３問**以降は読み上げ回数が１回（100点中59点）の問題が出題された。選択肢等を含めたリーディングの語数は約6,300語で，2023年度の6,116語から200語近く増加している（2022年度は6,044語，共通テスト初年度の2021年度は5,478語で，初年度から比べると900語近い増加である）。リスニングの読み上げ語数は1,547語で，これは2023年度の1,517語から微増しており，設問等の読むべき語数は585語で，これも2023年度の564語から微増している。マーク数は，リーディング49，リスニング37でいずれも2024年度と同じであった。大学入試センター発表の平均点は，リーディングは51.54点で，2023年度の53.81点から2.27点下がった（2022年度は61.80点，2021年度は58.80点）。リスニングは67.27点で，これは2023年度の62.35点から4.92点上がっている（2022年度は59.45点，2021年度は56.18点）。リーディング，リスニングともアメリカ英語だけでなくイギリス英語も出題されている。また，本文の表現，読み上げられた表現を言い換えた選択肢が正解になる問題，複数個所から集めた情報を元に正解を選ぶ問題が出題されている。

（2）　筆記試験

第１問

A：チラシ　　B：パンフレット

Aは英会話スクールの交流イベントに関するチラシの読み取り，Bは日帰りツアーのパンフレットの読み取りの問題。３つのイベント，３つのツアーすべてに関連した情報の把握が求められている。

第２問

A：チラシ　　B：レビュー

Aは将棋などの戦略ゲームクラブの勧誘のチラシ（部員のコメントつき），Bは旅行保険についてのレビューを読み設問に答える問題。ABのいずれにも「述べられていないもの」を問う問題，意見を問う問題が出題されている。

第３問

A：ブログ　　B：学校新聞

Aは「フォトラリー」というイベントの参加者のブログからの出題。**問１**は2023年度と同様に適切なイラストを選ぶ問題であるが，**問２**はブログを読んで適切なコメントを求める問題。

> **問２**　You are asked to comment on Susan's blog. Which would be an appropriate comment to her?
>
> ① I want to see a picture of you wearing the gold medal!
>
> ② You did your best. Come back to Japan and try again!
>
> ③ You reached 19 checkpoints in three hours? Really? Wow!
>
> ④ Your photo is great! Did you upgrade your phone?
>
> **2024年度大学入学共通テスト 英語 リーディング 第３問**

「途中で道に迷い，道を尋ねたがうまくいかず，最終的にはギブアップしたが，写真（**問１**の解答）を見ると途中で助けてくれた男性の優しさを思い出す」というブログの内容から，このブログに対するコメントとして適切なのは，②「よく頑張った。また日本に帰ってきて再挑戦を！」が適切。①はIt[= the picture] reminds me of the man's warmth and kindness: our own "gold medal." という最終文に関連するが，ここで述べられているgold medalは男性と撮った写真のことを述べているのであって，本当の金メダルではないので不適切。19のチェックポイントに達していたのはブログの筆者ではなく，優勝したチームのことなので③は不適切。④はブログの内容からは伺えない内容なので不適切であり，結局は本文に関する内容一致問題ではあるが，出題のしかたが目新しい。Bは学校新聞に載った「南の島へのバーチャルツアー」に関する記事からの出題。**問１**は各イベントについてのコメントを選ぶ問題で，2023年度と同

様に時系列に沿ってコメントを並べる問題であるが，記事との関連性が薄い選択肢が多く，最初は戸惑ったかもしれない。

第４問　記事

2023年度までの複数の英文を読んで答える問題とは少し形態は異なり，１つの英文とグラフ，アンケートの回答を読んで答える問題が出題されたという点では目新しい出題形式。英語クラブの部室の改善に関するもので，**問３**の配布物から取り除くべき項目を選ぶ問題がやや紛らわしい印象を受けるが，2023年度に比べると解答しやすい出題であった。2023年度の**問５**のような本文に直接書かれていない事柄を推測する問題の出題はなかった。

第５問　物語文

2023年度に続いて，2024年度も物語文が出題された。2023年度は一人称主語の英文でエッセー的な要素が強かったが，2024年度は本格的な物語文。実家のレストランを引き継いだマキが，高校時代の演劇部の同級生タクヤとカスミに的確なアドバイスを与えて，タクヤもカスミも成功を収めていくという展開で，最後にはタクヤとカスミがマキにアドバイスを与えるという物語。５回出てくる◆◆◆◆◆ごとに，場面が展開していき，時系列に沿って書かれた英文ではないこと，2023年度と比べると語数が300語程度長くなっていることもあり，戸惑った受験生も多かったのではないだろうか。出来事を時系列に並べていく**問１**，マキがタクヤとカスミのそれぞれに与えたアドバイスを選択する**問３**の正答率が特に低い（**問１**：31.6パーセント，**問３**：26.1パーセント（いずれも河合塾の資料による。以下同じ））**問３**は［ 35 ］と［ 36 ］のペア採点で，一方だけであれば正答率は高いが，誰にどのアドバイスをしたのかを正確に読み取っていなければならないこともあり，どちらも合わせて正解を選ぶとなると難しいようである。

第６問

A：記事　　B：論説文

Aは時間感覚に関する記事を読み，発表のためのメモを完成させる問題。**問３**，**問４**は本文に書かれている内容から考えられる独自の具体例の選択問題で，2023年度の**第６問**B**問５**と似た出題。**問２**は「時間感覚に年齢の与える影響」を述べた段落に関する問題。本文が正確に読めていなければ，

① major lifestyle change at any age will likely make time slow down

② major lifestyle change regardless of age will likely make time slow down

という２つの選択肢の識別が難しい。

Bはチリペッパーについて書かれたウェブ記事を読み発表用のスライドを完成させる問題。**問５**のClosing Remarkを補充する問題は，本文に直接書かれていない事柄を推測する問題であるが，誤りの選択肢はすべて本文に書かれている内容に反するもので，実質的に内容一致問題となっている。

☆　☆　☆　☆　☆

例年，後の問題になるにつれて正答率が下がっていくが，2024年度は総語数が200語近く増加したこともあり，「最後まで解き切れませんでした」と言う受験生からの報告が複数あった。このような声を聞くと速読力が必要と言えるかもしれないが，内容理解を伴わない速読力には意味がないことは言うまでもない。まずは，文法的理解に基づいた正確な読解力を養い，語彙力を高めていくことで，自然に英文が正確に早く読めるようになる，ということを目指すべきである。読み返しを減らすことが，結果的には速読力を高めることにつながるのではないかと思う。また，本文中の表現そのものが正解の選択肢となることはまずない。何らかの言い換えがなされているのが普通であり，その意味では単語・熟語の知識の拡充も必要である。2024年度は特になかったと思うが，2023年度には仮定法過去完了の知識がなければ解答できない問題が出題され，その問題の正答率が低かったことからも，正確な文法の知識が不足気味であることが伺える。受験生になじみのない単語が含まれることが増えているが，全体の内容がわかれば問題にならない程度のものである。普段から，少しくらいならわからない単語があっても全体を読み切るようにトレーニングすることが必要であろう。2025年度の以降の問題の試作問題を見ると，英文量はさらに増加すると同時に，単に英文を読んで理解するだけでなく，さまざまな作業が必要であることが予想される。

（３）　リスニング試験

第１問

A：短文の内容一致　　B：短文のイラスト選択

例年通り，Aでは，短い発話を聞きその内容と合っている選択肢を選ぶ問題が４問出題された。Bはで，短い発話を聞きその内容と合っているイラストを選ぶ問題が３問出題された。全体の正答率は８割を超えているが，**問４**の正答率は５割台であった。

第２問　対話文に一致するイラスト選択

短い対話文とそれに関する問いを聞き取り，その答えとして適切なイラストを選ぶ問題が４問出題された。**第２問**全体の正答率は９割を超えていた。

第３問　対話文の内容一致

短い対話文を聞き取り，一致する選択肢を選ぶ問題が６問出題された。**第３問**以降は音声が流されるのは１回のみ。全体の正答率は６割を超えるが，**問15**の正答率は５割程度だった。

第４問

A：イラストの並べ替え問題　　B：複数発言からの判断

Aでは，2023年度はグラフの完成問題であったが，2024年度は，2022年度，施行調査テストと同様に，時系列に沿ったイラストの並べ替え問題が出題された。また例年通り表の空所を埋める問題が出題された。「選択肢は２回以上使ってもかまいません」という指示文があるが，2023年度，2022年度と異なり，実際に複数回使う選択肢はなかった。Bは例年通り，４人の説明を聞き取り，示された条件に最も合うものを選ぶ問題。全体の正答率は８割を超えている。

第５問　講義

ガラスに関する講義を聞きワークシートを完成させる問題，講義の内容一致問題，グラフつきの内容一致問題が出題された。全体の正答率は５割に達していない。ワークシート自体は例年に比べると非常に簡素化されているが，このワークシートの補充問題である**問28～31**の出来が非常に悪かった。少し長くなるが，該当する部分のスクリプト，ワークシート，選択肢は次の通り。

〔スクリプト〕

One ancient technique uses a long metal tube to blow air into hot glass. This technique allows the glassblower to form round shapes which are used to drinking glasses or flower vases. Spreading hot glass onto a sheet of hot metal is the technique used to produce large flat pieces of window glass.

Today, new technology allows glass to be used in exciting ways.（中略）Other types of glass can help control sound levels in recording studios or homes. Moreover, tiny pieces of glass in road paint reflect light, making it easier to see the road at night.

〔ワークシート〕

● Glass：

Production	28 shapes	29 windows
Uses of Current Technology	30 rooms	31 roads

〔選択肢〕

① Adjusts sound in　② Arranged in
③ Blown into　④ Improves safety of
⑤ Reflects views of　⑥ Spread into

2024年度大学入学共通テスト 英語 リスニング 第５問

ここに挙げたスクリプトの第１段落の第１，２文から 28 に③が，第３文から 29 に⑥が入る。 28 でも 29 でも②を選んだ受験生が多かった。blown into shapesで「吹いてさまざまな形になる」，spread into windowsで「広げて窓になる」という意味になるが，intoが「変化とその結果」を表す前置詞であるという知識が不十分であったことが伺われる。また，第２段落の中略の直後の文から 30 には①が入り，次文から 31 には④が入るが， 30 では④， 31 では⑤が多くみられた。 31 で⑤を選ぶミスが多かったのは，「道路上の白線等にガラスの小片を埋め込むことで光を反射させる」という内容がわからず，reflect，road という聞こえた単語から解答を選んでしまったからだろう。

第６問

A：対話文内容一致　　B：対話文内容一致とグラフ選択

Aでは，旅行中の移動方法に関する２人の会話を聞き，発言中に表明されている意見を選択する問題が出題された。2023年度までの発言の要旨に関する内容一致問題とは少し出題内容が変わっている。Bでは運動を始めることに関する４人の会話を聞き，会話が終わった時点でウォーキングをすることに決めた人を選ぶ問題とLindaの考えの根拠となる図表を選ぶ問題が出題され，これは2023年度までと同様の出題。全体で７割を超える正答率である。2023年度からリスニングの平均点が５点近く上がったのは**第６問**の正答率の上昇が大きな原因である。

☆　☆　☆　☆　☆

本文の英語がそのまま解答になるわけではなく，１か所だけから解答が決まるわけではない点は，リーディング，リスニングに共通した特徴である。リーディングの問題のほうが，読み直しができる分，解答しづらい問題となっている点は異なるが，実質的な違いはほとんどない。その意味では，リーディングの問題をリーディングの問題として扱った後，本文を音声化して，リスニング問題として活用する，といった活用法も考えられる。リーディング問題の英文は分量が多いが，一度リーディング問題として扱った後であれば，リスニング対策として

有効であるのではないかと思う。なお，リスニングに関して発表されている試作問題を見る限り，2025年度は大きな変更点はなく，**第５問**の内容一致問題の問い方が少し変わる程度の変更にとどまりそうである。

2　国公立二次試験

（1）　概要

2024年度の主要な国公立大で出題形式や内容について目についたものを取り上げる。

東京大：分量・難易度共に変化はない。毎年のように出題形式に細かい変化がみられるが，2024年度は出題形式に大きな変化はみられず，2023年度同様の出題内容であった。１（B）では，東京大には珍しく，政治色のある英文が出題された。わずかな言及ではあるが9/11 trutherという表現に対して「2001年９月11日に起きた米国同時多発手とは米国政府の陰謀だという説を「真実」として主張する人」という注が付されていた。２(B)の和文英訳問題は従来にない長文の出題であったが，比較的英訳しやすい問題だった。今年度は再現答案の資料がないため，詳細な出来不出来は不明だが，2019年度から続いている４(A)の誤文指摘問題の出来が低いことが予想される。

京都大：2023年度は，2014年度以来初めて読解問題の設問がすべて下線部和訳問題に戻った。2024年度は，2019年度と同様の出題で，読解問題としては和訳問題以外には空欄補充（ただし名詞の補充は初出）が出題され，内容に関する説明問題の出題は2023年度に続いてなかった。自由英作文の問題も2019年度同様に，Ⅲの読解問題中に含まれる出題となった。京都大は素材となる英文の理解度を測るうえで柔軟に設問を作っているとも考えられるし，やはり「読解問題は英文和訳で」という考えがあるのかもしれない。Ⅲの和文英訳では，2023年度の「情けは人のためならず」という諺を扱った問題と比べると，問題文自他はやや長めであるが，構造面でも単語面でも比較的処理しやすい問題が出題された。ただし，日本文を字面通りに訳すだけでは，出来上がった英文が意味不明になってしまう，という落とし穴的な要素も含まれる出題だった。

北海道：2023年度から出題形式に変化はないが，長文読解問題の総語数が，2023年度から700語程度減少したために，時間的に余裕ができた，また2023年度は長文中の記述問題は４つの下線部和訳問題だけだったが，2024年度には下線部和訳問題は２題に減り，日本語による内容説明問題と理由説明問題が出題された。本学の特徴的な出題である3読解問題と英自由英作文の融合問題，4会話文の要約問題も引き続き出題されている。

東北大：読解問題では，従来は下線部和訳と日本語による内容説明問題が出題の中心だが，2024年度はそれらに加えて，誤文指摘問題，文の挿入問題，語句整序問題などが出題され，例年にない多様な形式の問題が出題された。また，2022年度の「環境難民」，2023年度の「人間の脳とAIの違い」「男性の美に関する考え方の多様化」に続き，2024年度は「アメリカ社会における教育格差」といった時事的な英文が出題された。Ⅳの英作文の問題は，語句整序，和文英訳が出題された。2023年度出題の日本文の意味を表す英文の選択問題の出題はなかった。

一橋大：2021年度から３年間続いた超長文（1,500語程度）の読解問題が，２つの読解問題に分かれた。読解問題の総語数は２題合わせて1,500語程度で分量的な変化はない。ただし，２つの読解問題で出題形式がわかれており，Ⅰは和訳と日本語による内容説明のみ，Ⅱは空欄補充10か所と語句整序２問のみという形式になった点は目新しい。全体に関する内容一致問題もないため，該当する部分の前後を読めばほとんど解答できてしまうような問題であった。また，２年連続で画像の内容描写の問題が出題された自由英作文問題は，与えられた問いに対する答えを100～140語で答える問題になった。以前のテーマ論述型の問題に近い出題である。

名古屋大：2022年度は２題，2023年度は１題出題された和文英訳問題の出題がなくなった点が大きな変更点。Ⅲの対話文問題に含まれる自由英作文は例年通りの出題。Ⅳの自由英作文は2023年度のグラフの読み取りから，錯視を表す図に関する説明問題で，図の具体的な説明と一般化した説明が求められておりなかなかの難問であった。

大阪大：いろいろな大学で出題形式が変わる中，際立った変化のまったくない出題が続いている点は2024年度も同様であった。年々読解問題が取り組みやすくなっていたが，2024年度は一転してなかなかの難問で，天文学の知識のまったくない受験生にとってはかなり読みづらかったと思われる。なお，外国語学部は，［Ⅱ］の長文読解問題と［Ⅳ］の和文英訳問題は他学

部とは異なる独自の出題が続いている。解答は日本語と英語による記述のみで，記号で答える問題の出題がまったくない，というのは例年通り。2024年度はすべての和訳問題が内容説明問題と融合した形になっている点は目新しい。また［Ⅳ］の和文英訳問題では，例年通り，直訳の効かない日本文が出題されていた。

広島大：2021年度から段落ごとに100語で要約するという独特な要約問題が出題されていたが，2024年度は語数が60語となった。すべての段落を同じ字数でまとめるのは難しい。読解問題では「集中力の維持」に関する２つの英文が出題されているが，設問は各英文に対応したものである。３の自由英作文では「オンラインに動画を投稿することについて」，４は「オンラインの書籍・雑誌の売り上げ」に関するグラフが出題された。2023年度は「オンラインサービスを普及させる方法」について100語の論述が求められており，オンライン関連の出題が目立つ。

九州大：ここ数年毎年出題形式が変わってきたが，2022年度以降，読解総合問題が３題，自由英作文問題が２題出題されている。2024年度は配点比に変更があり，読解が120点から130点に，自由作文が80点から70点となり，読解重視の出題となった。また，自由英作文では，図表説明問題がなくなり，２題とも普通の論述問題となった。

その他の大学では，小樽商科大，金沢大では解答用紙には英語以外書くことのない出題が続いている。名古屋工業大と静岡大の情報学部情報学科では，合教科・合科目的な問題として，数学と英語の合教科を意識した出題が続いているが，2024年度は静岡大の情報学部情報学科は設問数が１問から３問に増加し，さらに作図の問題も出題された。

（2） 読解問題

昨年，この冊子で「コロナ禍，ジェンダーの平等，地球温暖化，AIなど時事的な事柄を扱った英文が多くみられた」と書いたが，2024年度はそのようなテーマの英文の出題はむしろ減り，「うそを見破るのが難しい理由」，「数学と文学の意外な関係」「無理なく目標を達成するためのヒント」「親切な行為のもたらす効果」「地球の支配者である植物」など普遍的なテーマの出題が多かった。そのような中で，京都大が「マーケティングにおけるセグメント化」といった非常に現代的なトピックを扱った英文を出題したのは目を引く。解答には直接かかわらないが，経済用語としての「トライブ（趣味嗜好を共有する消費者集団）」も出題されていた。

（3） 表現問題

全体的に見て，2024年度も長文読解や対話文問題に自由英作文を組み込んだ融合問題が増えている印象である。従来型の和文英訳問題よりも自由英作文の問題の出題のほうが多くなっている。先に見た読解問題とは異なり，出題内容としては，実生活に直接関連する時事的な内容のものが多く出題されており，「社会的出来事についての説明や意見を書くもの」「個人に関する事柄・体験などを書くもの」「与えられたテーマについて書くもの」があり，最後の種類の出題が最も多い。例年本稿で書いているように，現役生を高２，高３と見ている印象では，彼らは自由英作文の問題に対しては以前の受験生のような抵抗を感じることなく取り組むが，以前の受験生と比べると英語表現の力そのものは低下していて，和文英訳問題に苦戦する，という印象である。和文英訳は自由英作文で正しい英文を書くための前提と言えるので，従来型の和文英訳の練習も不可欠であろう。今回は大阪大の外国語学部の和文英訳問題の一部を取り上げる。「絵本に救われたことがある」という書き出しに続けて，些細なことがきっかけで高校生の娘と関係がギクシャクし，そのまま娘は実家を離れて大学に通うこととなったために，毎月一冊の絵本を送るようになった，という流れを受けた部分である。

> なぜ絵本だったか。（中略）⑵その後悔を埋め合わせるように，大学生の娘のことを思って本屋に通い，毎月一冊の本を送ったのだ。雪解けまでには，それほど時間はかからなかった。（中略）⑶絵本には，僕たち大人が思っている以上に力がある。現実から目を背けさせてくれたり，嫌なことを忘れさせてくれたりといったまやかしの力ではない。現実を向き合い，困難に打ち勝っていくための本物の力が，絵本にはある。僕はそう信じている。
>
> **大阪大**

昔ながらの自然でこなれた日本語の英訳問題，という印象かもしれないが，受験生の英語力を測るのに適したいい問題ではないかと思う。⑵では「雪解け」は文意に沿った英訳が求められる。また「…までにそれほど時間はかからなかった」ではIt takes 人 + 時間 + to *do* などの基本的な構文が使えるかどうかが測れる。⑶では「まやかしの力」をどう表現するか，そして最終文の「困難に打ち勝っていくための本物の力が，絵本にはある」の

部分は，「絵本が困難に打ち勝つ」としたのでは意味不明で，「私たちが困難に打ち勝つ力を，絵本が与えてくれる」と読み替えて意訳すべきであるといった点がポイントである。

3 私立大学

私大の出題形式は大学や学部で千差万別であるが，読解問題では，空所補充，下線部の言い換え，内容一致などのオーソドックスな出題形式に加えて，ある意味トリッキーでパズル的な，言いようによっては生んで左右されるような要素を加え持った出題がなされるのも特徴である。その意味で，早めに受験大学の問題に目を通して，どのような問題が出題されているのかを確認しておくべきである。慶應義塾大，早稲田大などを中心に一部の難度の高い大学で，主に「読む・書く」を中心とした技能統合問題が出題されている。空所補充や言い換え問題では，単語や熟語等の語彙的知識をそのまま問う場合と，文意を把握したうえで未知の（あるいは難解な）語句の意味を推測する必要がある場合があるから，基本的な語彙力の強化と英文内容の理解力を高めておく必要があるという点では，国公立大の場合と違いはない。国公立・私立を問わず，読解問題の長文化が進んでいるが，客観問題の出題が多い私大の問題は，１題の英文量が多いだけでなく問題数が多いのも特徴で，限られた時間で設問に答えるトレーニングが絶対に不可欠である。いずれにしても，大学間で出題形式に大きな差がある。安易に過去問中心の学習を進めることはできないが，ある程度基礎的な力を身に着けたら，先にも述べた通り，過去問演習を中心に学習を進めるべきであろう。ただし，過去問がもう一度出題される可能性はないと言っていいので，その大学の出題傾向に似た他大学の過去問，特に難度の高い大学の読解問題対策としては，過去問に出典として挙げられている出版物なり，ウェブページなりにあたってみるのもいいかもしれない。2024年度に特に目についた問題をいくつか取り上げておく。本格的な記述問題が30年以上出題されていなかった慶應義塾大の理工学部で2023年度は日本語による要約問題と和文英訳問題が出題されたが，2024年度は要約問題の出題はなかった。早稲田大の法学部では2023年度に図表の説明やwebページ，メールの完成問題など，実用的な場面を意識したような新傾向の問題が出題されたが，2024年度はいずれの出題もなくなった。また，2021年度から総合問題の一部として英語が出題されている早稲田大の政経学部では，読解問題というよりは情報を整理して簡単な計算をする，いわゆる情報の処理能力を問う問題が出題されている。

江本　祐一（えもと・ゆういち）

河合塾で京大，医進の授業を中心に担当。京大系のテキスト，京大オープン（第２回チーフ），及び高１から高３までの最上位テキストの作成に携わる。出版物は「英語暗唱文ターゲット450」（旺文社），「入試英単語の王道」（河合出版・共著）など。

知が啓く。
啓林館
URL https://www.shinko-keirin.co.jp/
令和７教　内容解説資料

本　　社　〒543-0052　大阪市天王寺区大道４丁目３番25号　電話(06)6779-1531　FAX(06)6779-5011
東京支社　〒113-0023　東京都文京区向丘２丁目３番10号　電話(03)3814-2151　FAX(03)3814-2159
北海道支社　〒060-0062　札幌市中央区南二条西９丁目１番２号サンケン札幌ビル１階　電話(011)271-2022　FAX(011)271-2023
東海支社　〒460-0002　名古屋市中区丸の内１丁目15番20号ie丸の内ビルディング１階　電話(052)231-0125　FAX(052)231-0055
広島支社　〒732-0052　広島市東区光町１丁目10番19号日本生命広島光町ビル６階　電話(082)261-7246　FAX(082)261-5400
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院１丁目５番６号ハイヒルズビル５階　電話(092)725-6677　FAX(092)725-6680